令和3年度　第１回蓮田市地域包括ケア推進代表者会議書面開催結果

No.	委員所属	議事１【令和２年度書面会議の振返りと進捗状況の報告について】	議事２【蓮田市の地域包括ケア推進事業について】	顧問からのコメント
1	蓮田市医師会	読ませていただきました。	コロナ禍であり、事業推進はなかなか難しいと思います。大変だと思いますが無理のない程度でお願いします。	
2	蓮田市医師会	新型コロナウイルスの感染状況を考えると、様々なイベント等を中止するのはやむを得ないと思われます。しかし、高齢者の閉じこもりや運動機能低下を考えると、別の形（例えば、季節によっては屋外での体操教室を開催）で行うことも考えるべき。ＤＶＤも良いと思われますが、それをどのように利用し、長所・短所を検討してください。また、ワクチン接種者と非接種者の対応も考えるべきだと思います。	将来的に今より地域差が生じる可能性があるので、その時に地域の範囲の修正、人員配置の修正が必要になることを予想していた方が良いと思われます。	・介護予防DVDと冊子を使用した好事例について検討し、紹介する機会もあるとよいでしょう。 ・ワクチン接種者と非接種者の対応については、ワクチン接種を受けられない、あるいは受けたくない人を傷つけることなくお互いの人権を守りつつ、どのように対応していくのか熟考が必要です。
3	蓮田市歯科医師会	新型コロナ感染拡大の最中、市民の為に、地域包括ケアの推進を途切れる事なく続けられていた事に感謝申し上げます。 市内にＰＣＲ検査等が11医療機関で実施されていること知りました。しかしながら、発熱等の症状が無いと検査が受けられないようなので、もっと気軽に受けられる機関があるとありがたいですね。 「イキイキ生活のつづけかた」に歯ブラシや口腔体操の記載があるのがとてもうれしいです。ウイルスを感染させない、うつさない、歯ブラシとうがいの仕方等もありますので、機会があれば紹介させてください。	地域包括支援センターが三か所に増設されて喜ばしい。より、きめの細かい支援が可能となるのでしょう。コロナ厄の中、出来る事業を一歩ずつ進めて行きましょう。 在宅医療サポートセンターが三年間以上に渡り、実績を積み重ね、大変頼りになる顔の見える身近な存在として認識していましたので、閉鎖の知らせは残念でした。市内への再度の設置を希望します。	・通院が難しくなった方々が、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域の医療・介護の各関係者が連携し、包括的かつ継続的な体制づくりをすることがこれからより求められます。 1か所の在宅医療サポートセンターが3市1町の圏域全ての業務を担えるのか丁寧に検討する必要があると思います。
4	蓮田市薬剤師会	コロナ禍における介護事業への影響を真に評価するためには、以前と以後での事業の成果、例えば、介護度の変化（改善と悪化）等を定量的に測定するなどデータ化も必要になってくるのではないか？ ちなみに医療では、「2020年の全国の死者数は例年に比べdownしており、明らかに増加している欧米諸国とは一線を画している。」等のデータがある。	サポートセンターの今後については、その目的からして制度の充実と理解の進展、またそれを担う人々の習熟度が上がることで段階的に整理・縮小に向かうべきものと考える。	

No.	委員所属	議事１【令和２年度書面会議の振返りと進捗状況の報告について】	議事２【蓮田市の地域包括ケア推進事業について】	顧問からのコメント
5	蓮田市訪問看護事業所連絡会	① 熱のある方への訪問の場合、ガウンやフェイスシールド等のフル装備で感染予防対策を行っているが、熱中症疑いの方が多く、結局はＰＣＲ検査をすることなく軽快することが多かったです。 熱が出ると、利用者様に関わるヘルパー事業所やデイサービス等の介護サービスを休止しなければならない事も多く、介護者の負担が大きくなっています。 ＰＣＲ検査を受けに医療機関を受診することは、介護度が高い方にとってはとても難しく、また結果が出るまでに時間がかかるため介護サービスを休止しなければならない事もあります。訪問看護師による新型コロナ抗原検査ができるようになれば、もう少し対応が変わってくるのではないかと思いますが。 しかし、コロナワクチン接種を済ませた方が多くなったため、心配することが減った印象もあります。 ② 令和２年度の実績では、新型コロナの影響で、体操がしたくてもできない状況があったのだと残念です。ＤＶＤや冊子を使用してどうだったのか、反応や結果を楽しみにしています。	在宅医療サポートセンターの機能を実感する場面がありました。東京の病院を近く退院するにあたり、在宅サポートセンターに問い合わせして、訪問診療を紹介してもらったと。 新型コロナの影響で、訪問診療を紹介してほしいと言われることや、病院を早く退院する方も多くなり、医療機器の取得や助成制度を相談する事も多くなってきたと実感しています。 在宅サポートセンターの問い合わせや、混雑具合が分からないので設置を増やす必要性は分かりかねますが、今後在宅医療を進めていくにあたり、必要な制度だと思います。地域包括支援センターも同様です。	・「熱が出ると、利用者様に関わるヘルパー事業所やデイサービス等の介護サービスを休止しなければならない事も多く、介護者の負担が大きくなっている」 はよく耳にします。また、それだけでなく、具合が悪くなくても、自主的に利用しない方もまだまだ多いようです。 何が課題となっているか、必要としている支援は何かについて調べてみることも大切と思われます。 ・新型コロナの抗原検査キット が薬局で販売開始されています。結果、 自宅で検査が可能になりました。 今後広まっていくでしょうか。 https://www3.nhk.or.jp/news/html/20211011/k10013302411000.html
6	認知症専門病院	・新型コロナに関して ワクチン接種状況と若年層へのワクチン接種の促進に関しての対応について、行政としての取り組みを行っていらっしゃるようでございましたら、ご教示いただけましたら幸いに存じます。 引き続き、感染対策の強化を図るよう、行政単位での発信を促していただけるとよいのではないかと思われます。 行政での業務が逼迫している状況のものがあり、迅速に対応が必要だと思われるものがあれば、医療、介護だけではなく、一般企業含めて補助できるものがあれば検討できるような協力体制を整えていくことはできないだろうか。（例えば、自宅療養者向けの宅配サービス等で、自宅療養者が増加し、対応に苦慮しているということであれば宅配業務を補助する等）	在宅医療サポートセンターについてですが、市内に設置されることが望ましいとは思いますが、具体的な業務内容については再度検討することが必要ではないかと思われます。 医療と医療、医療と介護、介護と介護、さらに地域との連携等、すでに決まっている役割があるのかもしれませんが、縦断的かつ柔軟に対応できるような裁量が求められる場であると思われるため、検討が必要であると思われました。	

No.	委員所属	議事１【令和２年度書面会議の振返りと進捗状況の報告について】	議事２【蓮田市の地域包括ケア推進事業について】	顧問からのコメント
7	蓮田市 介護支援専門員 連絡会	ＰＣＲ検査について、市内の医療機関で発熱外来等実施しているようであるが、どこで検査してもらえるのかが、周知されていない。実際、発熱した場合以外で、身内が濃厚接触者疑い等で検査を希望したが、検査を受け入れてくれる所を探すのが大変だった方がおりました。検査可能な機関を市民が知れるようになってほしい。 介護予防がコロナ禍で、開催が難しい状況となってますが、ＤＶＤの活用等を行うにあたり、ＤＶＤプレイヤー等の環境が整ってなかったり、プレイヤー等の使い方が把握できてない等の問題も、今後考えていければと思う。	①今年から包括支援センターが1ケ所増え、虐待や認知症等、いろいろな関係者と、より連携を図れるようにしていきたい。 ②在宅医療サポートセンターについて 最近では、Ｚｏｏｍ研修やＭＣＳの活用もあり、以前に比べると関わりやすくなったと感じる。やはり、この地域に設置されて、地域の中で相談したり情報共有できたりしていければと思う。場合によっては、担当者会議も同行していただき、専門的な助言もお願いしていければと思う。	「ＰＣＲ検査について、市内の医療機関で発熱外来等実施しているようであるが、どこで検査してもらえるのかが、周知されていない」ことは課題だと思います。検討お願いいたします。
8	介護施設・介護事業所（理事）	事務局説明に書かれている、現状における課題や対応についてですが、先の見通しが立たないコロナ対策を現在も継続しており、感染予防対策を行いながら、ご家族の面会、ボランティア受け入れ中止、施設内に留めた小規模行事などを実施しています。職員一丸となって取り組んでおり、「明日は我が身」の状況ですが、今のところコロナ感染者が出ることなく施設運営を行っています。 しかしながら、外部との係わりが無くなったり、イベントもなかなか実施が難しい状況で、お客様も日常の刺激が少なくなりＱＯＬの低下が進んでいるようにも見えるのが現状の課題である。 高齢者の介護予防についてですが、比較的お元気な高齢者の方々は、ＰＣやタブレット、スマホを使っている方もいらっしゃると思うので、紙媒体の他、アプリ化にしたり、サイト内に介護予防ページを作成したりすると良いのではないかと思う。介護予防冊子内にあるチェック表は、ネット上で記入を行って貰い、一ケ月毎に結果の評価が貰える仕組みや、体操のページなどは、動画で見られるようにしたりすることによってマンネリ化を防ぐことも出来るのではないかと思います。 行政と地域の会議となると、参加者の年代層も、企業と個人の関係もあり、バランスをとることが難しく、デジタル化を推し進めることが厳しい状況だと思いますが、書面会議では、なかなか皆さんの状況やお考えが見えず、会議のような議論やご意見が聞けないので、できればＺｏｏｍなどのオンライン会議、一部参加も含めたハイブリット形式のオンライン会議も取り入れて行っていただけると良いと思います。	閏戸・平野地域包括支援センターの管理者変更について書かれていないようですが、報告は無くても大丈夫だったのでしょうか？←確認です。 サポートセンターについては、東埼玉病院内に設置があったことは良かったと思いますが、この機会にセンター継続のために一部に負担がかかってしまうことや新たな体制、地域（蓮田市内）の連携をあらためて見直すきっかけになれば良いかと思います。	「一部参加も含めたハイブリット形式のオンライン会議」等、今後は積極的に行っていきましょう。

No.	委員所属	議事１【令和２年度書面会議の振返りと進捗状況の報告について】	議事２【蓮田市の地域包括ケア推進事業について】	顧問からのコメント
9	訪問介護事業所	・新型コロナウイルス感染症に関して、行政として様々な対策を講じてくださっていることが資料1-2でわかりました。いまだに猛威は衰えず、次々と変異株も出現する中での生活は、利用者の皆様にとっても外出の機会の減少や体力低下に繋がっていると感じます。また、認知症状のある方は、室内外でのマスクの着用が困難なため、お声がけの難しさを感じます。 　陽性者の在宅療養が今後も増えると想定した場合の対応は、いまだ不十分と感じます。 　学校が再開しましたが、特に低学年は感染対策がどこまで徹底できるか不安があります。先生方の負担が増大していると感じます。 ・資料2-1と2-2に関して、仕方がないことですが、介護予防教室が実施されない影響が多くの方に出ていることがわかりました。ＤＶＤの作成や個別対応など工夫しながら継続可能な部分は引き続き取り組まれていることがわかりました。イキイキ生活のつづけかたの冊子はたくさんの項目が凝縮されているので、例えば食事が心配な方には食事記録表が、基本的な生活習慣が気になる方には手洗い・食事・歯磨きチェック表や生活習慣記録表が、個別にプリントアウトしてお渡しできるように、すぐ目につく場所で確認できるようにして差し上げるとさらに有効活用可能かと思われます。	・資料３に関して、地域包括支援センターの介入を必要とする困難ケースが増えているように感じます。地域のニーズを拾うことも大事ですが事業所が気軽に相談できる体制であってほしいと思います。 ・資料４に関して、東埼玉病院内に設置されていた在宅サポートセンターが閉鎖されてしまったことは、今までの功績からみても非常に残念でした。地域包括支援センターではカバーできない緊急性を要する相談や悩み事を一緒に考えて下さる場所は是非蓮田市内に再度設置して頂きたいです。医療介護の相談窓口は増え支援体制も充実してきたと思いますが、福祉の分野、障害の分野まだまだ手つかずで遅れています。今後は障害者支援センターの職員の方々とも連携を図り適切な医療を受けられる相談窓口や体制が必要と感じます。	「障害者支援センターの職員の方々とも連携を図り適切な医療を受けられる相談窓口や体制が必要」現場からの大切な発信だと思います。 「地域包括支援センターではカバーできない緊急性を要する相談や悩み事を一緒に考えられる場所」は、蓮田市において高齢化率が、2025 年（令和７年）には 19,542 人、32.7%、2040 年（令和 22 年）には 18,665 人、36.7% ※と見込まれている今、とても重要でしょう。 ※蓮田市高齢者福祉計画2021・第8期介護保険事業計画第３章 高齢者を取り巻く現況と課題
10	蓮田市閏戸・平野地域包括支援センター	新型コロナウイルス感染対応も2年目となり、正直「慣れ」の感覚もあります。最近は感染予防の意識が低い方も多くなっているので、市としても、感染予防の啓発活動は継続していただきたいと思います。また、2回ワクチン接種をしても陽性反応が出てしまう方も多くなっています。濃厚接触者となってしまい、ＰＣＲ検査を受ける必要がある場合、検査をしてくれる医療機関等が見つからずに苦労をしています。市として、ＰＣＲ検査をしていただける医療機関等の情報提供をしていただくことはできるのでしょうか。	東埼玉病院内の在宅医療サポートセンターの閉鎖のお知らせがあったときは、本当にびっくりしましたし、残念でした。蓮田市内にあるサポートセンターだったので、安心して相談ができるセンターでした。「医療機関窓口一覧」も参考にさせていただくことが多かったです。地域の情報は、やはり地域の中でやり取りができるといいと思います。必要な情報源として、できれば市内に再設置していただけるとありがたいです。	「検査をしてくれる医療機関等が見つからずに苦労をしています。市として、ＰＣＲ検査をしていただける医療機関等の情報提供をしていただくことはできるのでしょうか。」 No7　上記コメントと同様。

No.	委員所属	議事１【令和２年度書面会議の振返りと進捗状況の報告について】	議事２【蓮田市の地域包括ケア推進事業について】	顧問からのコメント
11	蓮田市 社会福祉協議会	〖１〗新型コロナウイルス感染症への対応における、『現状における課題や対応』について （１）現状 １）蓮田市では、9月1日現在、642名（前日比＋8）の累計感染者が発症。 ２）9月1日現在の患者数87名で、内、入院7名、宿泊療養10名、自宅療養者70名、退院・療養終了など542名（市ＨＰより）。 ３）9月1日より、蓮田市は、自宅療養者に食料品などの支援を実施することになった。しかし、市ＨＰで見る限り、本サービスは申告ベースである。 ４）蓮田市は幸手保健所管内であり、保健所が、入院・宿泊療養・自宅療養などの振り分け、自宅療養者の指導・面倒見などを行っている。 （２）課題や対応 １）『自宅療養者ゼロ』を目標にして、埼玉県（国）に働きかけること。 （埼玉県　8月31日現在　自宅療養9271名、宿泊など調整中2066名） ・臨時病院（野戦病院）500床以上の建設（大阪府は1000床に取り組み中） ・宿泊療養施設の整備 ２）暫定策として、自宅療養者が安心して治療に専念できる支援体制、医療体制を構築すること。 ・シルバーセンター跡地に『酸素Ｓ＋抗体カクテル療法』10床を建設 （抗体カクテル療法は、感染早期に投与すると効果が顕著で軽症化すると報道されている） ・感染者送迎にトヨタからの寄贈車の活用 ３）自宅療養者への支援策として、市による定期的な確認の実施、車による移動手段の提供の実現（例えば、トヨタ寄贈車、感染者が使える介護タクシーなど）。 （３）理由 １）自分事として考えても、子供、孫が感染した場合を想定すると、 ①感染症を発症した家族が、医者の診断もなく、保健所の指示で自宅療養しているのは、絶対に納得できない。 ②ワクチン接種済みでも、重症にはならないが、感染は避けられないと言われており、現に、ワクチン接種済み者の感染が報道されている。従い、感染した家に行って家事をしたり、孫を検査のために車で移動した	〖１〗在宅医療サポートセンターの再設置の要否について （１）資料4を読んで １）相談業務が、2018年度77件、2020年度114件　＋37件 ２）相談者は、介護関係・医療関係機関が多い。 ３）相談者の所在地は、蓮田市が2020年58件でトップ。 ４）相談内容は、医療機関、訪問診療、介護・福祉サービスなど専門性が高い。 （２）蓮田市に設置することが望ましいと思われる。	

No.	委員所属	議事１【令和２年度書面会議の振返りと進捗状況の報告について】	議事２【蓮田市の地域包括ケア推進事業について】	顧問からのコメント
		り、自宅に引き取ったりは出来ないと判断せざるを得ない。 ③出来ることは、電話の状況確認と、必需品などを送ってやることくらいだ。 ２）新型コロナ感染者が報告されてから、1年8ケ月も経過したのに、感染対策がデータベースで無く、目標も明確に数値化されていない。また、国民への訴えも論理的でなく、感覚的な内容の繰り返しである。新型コロナが感染した当時、感染症専門家の提案、すなわち、米英中国などが実施した簡易病棟の建設、既存の体育館などや宿泊施設の流用による簡易宿泊療養施設の確保などは手付かずである。 ３）医療従事者や、コロナ病院などへの財政的支援が不十分との報道があるが、実体がわからない。 〖２〗資料2-2『いきいき生活のつづけかた』の有効な活用方法について （１）現状 １）地域住民の地域包括支援センターへの認知度は極めて低い（高虫地区のみか？）。 ２）農業従事者は、80歳を過ぎても、身体が動くうちは生産活動ができるので現役である。従って、身体のことで、市役所のお世話になるのを恥と思っている。 ３）老人会、はすぴぃ体操などの人的交流会に参加しない人が多い。参加する人は、元気な人たちである。 ４）いずれにしろ、このような個人の取り組みは、習慣化しないと成功しないと思う。 （２）実施（案） １）高齢者の検診・健診時に、体力測定を実施し、年齢よりも劣っている人に（基準を決めて）本資料と簡易体操の資料を配布し、6～9ケ月フォローしてはどうか？（肥満の方について個別指導を実施した実績がある） ２）老人会やサロン（社協推進）などを使って、講習会などを開催し、資料2-2の活用、地域包括支援センターのＰＲの実施。		

No.	委員所属	議事１【令和２年度書面会議の振返りと進捗状況の報告について】	議事２【蓮田市の地域包括ケア推進事業について】	顧問からのコメント
12	県保健所	・コロナ禍においても、市が市民とともに様々な工夫を行って介護予防に取り組んでいることは、大いに評価できると思います。 ・今後も引き続き、市民や市役所内外の声を聴きながら、創意工夫を行って、介護予防の取り組みを進めていただければと思います。	・地域包括支援センターが増えて、それぞれの地域に密着したきめ細やかな対応ができる体制が整備できたことは、好ましいことと思います。 ・コロナ禍で対応が難しい部分もあるかもしれませんが、取り残される市民が出ないよう、新たな仕組みができればよいと感じました。 ・こうした中で、在宅医療サポートセンターの実績報告の資料を見ますと、ＺＯＯＭやＭＣＳを活用した取り組みが行われたことは良かったと思います。 ・今後も、様々な手段を取り入れて地域包括ケアの推進に向けた取り組みを行っていただければと思います。	
13	自治連合会	意見提出なし	意見提出なし	
14	民生委員・児童委員協議会	コロナ禍の中、担当地域内での人流は見られない。見守り訪問もできず、どうしたものかと考える。	「いきいき生活のつづけ方」は、前向きに取り組もうと考えている方には良いと思う。 　私達は包括さんと連携を持ち、情報を交換しつつ、地域の見守りをして行きたい。	